

第1日 Itを中心とする構文

- 《チェックポイント》———
- ◇ 〈It takes + 人 + 時間 + to ...〉 = 〈It takes + 時間 + for + 人 + to ...〉 「人が…するのに～の時間がかかる」, 〈It costs + 人 + お金 + to ...〉 = 〈It costs + お金 + for + 人 + to ...〉 「人が…するのに～のお金がかかる」
- ◇ 〈It is ~ that ...〉 「…は～である」, 〈It is ~ (for [of] A) to ...〉 「(Aが) …するのは～である」 that 節や to 不定詞以下が真の主語になる。
- ◇ 〈It is ~ that ...〉 「…は～だ」で、「～」には強めたい『主語・目的語・副詞句 [節]』が来る。

暗唱構文の訳

- ① 私はこのレポートを書くのに1週間かかった。
- ② 母が怒るのも当然だ。
- ③ パリで我々が会ったのはなんと先生だった。

【1】

〈解答〉

- (1) cost (2) to (3) took (4) I

〈解説〉 (1) rent 「(お金を払って) 借りる」
 (2) it は to 以下の『形式目的語』 learn to 「～できるようにする」 (3) = It took twenty minutes for me to solve this math problem. (4) I had a chance to dance with her. の強調構文。

【2】

〈解答〉

- (1) how far it is to the
- (2) How long does it take to get to Atlanta
- (3) was John that gave us the information we needed

〈解説〉 (1) it は『距離』を表す。 how far it is の語順に注意。 (2) How long does it take to

～? 「～するのにどれぐらい時間がかかりますか?」
 get to = arrive at 「～に到着する」 (3) 『強調構文』 It was John who ～でもよい。

【3】

〈解答〉

- (1) cost me (2) that / it (3) It / to

〈訳・解説〉 (1) 「このチケットを手に入れるのに2千円かかった。」 *two thousands にならないことに注意。 (2) 「君が我々の部に入るのは当然だと思うよ。」 〈take + O + for granted〉 「O を当然だと考える」 『形式目的語』の it を用いる。 (3) 「その山には難なく登れた。」 〈have no difficulty in ~ing〉 「～するのに苦労しない」

【4】

〈解答〉

- (1) アメリカでは、大学に入学するのは簡単だが、大学にとどまるのは難しいと一般的に言われている。
- (2) 後になってからやっとみんながその男をどんなに愛していたか私は理解できた。
- (3) いくつものハクチョウの群れがほほいつも、夕立の後ですぐに空に現れるのは、私にとってかつて大変不思議なことだった。

〈解説〉 (1) 三つとも『形式主語』の it の用法である。 commonly 「一般に」 stay in = stay in college (2) 『強調構文』 realize 「～を実感する」 only later の訳出に工夫が必要。 (3) 『形式主語』 wonder 「驚き; 驚異」 flock 「群れ」 immediately = at once 「すぐに」 a rain shower 「夕立」